

令和5年度第3回和歌山県医療対策協議会 議事録

【日時】令和6年3月15日（金）14:00～15:10

【場所】和歌山県自治会館 3階 304会議室

【次第】

1. 開会

2. 挨拶（和歌山県福祉保健部 雑賀技監より挨拶）

3. 議題（※下記（1）～（8）のとおり進行）

（1）医師臨床研修病院の指定等について

（2）橋本市民病院における臨床研修協力施設の追加について

（3）令和7年度から臨床研修を開始する研修医の募集定員（案）について

（4）医学部臨時定員の状況及び令和7年度の方針（案）について

（5）医師の働き方改革に係る特定労務管理対象機関の指定について

（6）令和6年度の医師派遣について（報告）

（7）令和6年度専門研修に係る専攻医の採用状況等について（報告）

（8）その他

4. 閉会

【議事】

[議題（1）医師臨床研修病院の指定等について]

(事務局 医務課 濱崎主事)

医師臨床研修病院の指定等について説明 (【資料1】関係)。

(平石会長)

事務局より、医師臨床研修病院の指定等について説明があった。ただいまの事務局からの説明を受けて、各委員からご質問やご意見があれば発言をお願いします。

<特になし>

(平石会長)

それでは、特になしということで次の議題へ進ませていただく。

[議題(2) 橋本市民病院における臨床研修協力施設の追加について]

(事務局 医務課 濱崎主事)

橋本市民病院における臨床研修協力施設の追加について説明 (【資料2】関係)。

(平石会長)

事務局より、橋本市民病院における臨床研修協力施設の追加について説明があった。ただいまの事務局からの説明を受けて、各委員からご質問やご意見があれば発言をお願いします。

<特になし>

(平石会長)

駿田先生いかがでしょうか。

(駿田委員)

鹿児島県の方は奄美大島で、離島医療、急性期も含めてかなり広くやられている。もともと入っている瀬戸内徳洲会病院も同じ奄美にあるが、そこと連携して色々経験でき、また向こうの先生からのご推薦もあったということもあり、ぜひというかたちで。大阪の内科クリニックは、在宅が非常にしっかりされているということと、当院へ色んな指導で来ていただいている先生で、そ

のような関係のなかで在宅診療を奥深く経験させていただけるということで検討させていただいている。よろしく願います。

(平石会長)

同じ島の中に徳洲会病院が2つあるのか。

(駿田委員)

そのとおり。徳洲会はいくつか診療所も含めて5つか6つのネットワークでされている。

[議題(3) 令和7年度から臨床研修を開始する研修医の募集定員(案)について]

(事務局 医務課 濱崎主事)

令和7年度から臨床研修を開始する研修医の募集定員(案)について説明(【資料3】関係)。

(平石会長)

事務局より、令和7年度から臨床研修を開始する研修医の募集定員について説明があった。ただいまの事務局からの説明を受けて、各委員からご質問やご意見があれば発言をお願いする。

(駿田委員)

前半の臨床研修医の募集定員の123のところ質問なのだが、人口はそんなに変わらないかもしれないが、毎年この数字が出てきて、その都度次々年度の数値を出していく流れなのか。

(事務局 医務課 濱崎主事)

そのような流れになる。

(駿田委員)

123が121になるには人口がどれくらい減ったとか、定員は変わらないと思うのでそのあたりは色んな指標があると思う。ある程度予測はできるかと思うが、123が122になって121になって120になるという予測はあるか。

(事務局 医務課 濱崎主事)

今後は減っていくと思う。ただ、令和8年度以降の募集定員についての方針

は現在国で議論中のためどれだけ減るかということはまだわからないが、減っていくと予測はしている。

(駿田委員)

県として先ほど、3年間の内定数の実績という1つの大きな数字が出ていたが、何かこのような要素で判定されるということがあれば、現場的には注意しておかないといけないと思う。橋本市民病院は現在の定員は4だが、4が3になるか、2になるかというところで、努力すべきところは日々努力する必要があるので、教えていただきたい。

(事務局 医務課 岩垣医療戦略推進班長)

令和7年度までに1.05倍までに縮める等、ある程度国も将来的な見通しを立てて、募集定員を減少させていくというところがあった。ただ、コロナもあってその減少が一時ストップしたという経緯がある。7年度までの方針は国の方から出ていたが今後についてはまだ見通しが立っていない状況。県として、配分にあたり何を重視するかというところにおいては、定員と採用実績の差というところもあるが、研修終了となる2年後の県内残留率についても考慮させていただく大きな要素となっている。

(山下委員)

1ページ目で令和2年に1.1倍、令和7年までに1.05倍まで縮小するとあるが、計画としては令和2年から令和7年の間は毎年少しずつ減らすという数字が出されているのか。令和8年度以降についてはまだ出されていないのか。

(事務局 医務課 岩垣医療戦略推進班長)

そのとおり。

(山下委員)

今後5年の計画はまだ出していないのか。

(事務局 医務課 岩垣医療戦略推進班長)

5年になるかどうか未定。

(山下委員)

例えば、来年突然1.03倍になる可能性もあるのか。

(事務局 医務課 岩垣医療戦略推進班長)
あり得る。

(平石会長)
医学部の入学定員も関係してくるのか。

(事務局 医務課 岩垣医療戦略推進班長)
そのとおり。国としても医師の需給見通しを立てていて、地域偏在が課題だと認識しているので、地域偏在をどのように解消していくかということで、医師の養成課程、入学段階、初期臨床研修段階、専門研修段階、それぞれで地域偏在の解消を行っていかうというところ。医師の総数も全国発表では増えているところがあるので、将来のことを考えると臨時定員についても議論が進められている。

(平石会長)
偏在の方策を立てられるなら立てていただきたい。唐突に減らされることは厳しいし、研修医の先生方の行動まで縛ることはできない。そのあたりは今後の課題である。

それでは事務局においては、本日の内容を踏まえて、令和7年度から臨床研修を開始する研修医の募集定員配分について、国に報告するようお願いする。

[議題(4) 医学部臨時定員の状況及び令和7年度の方針(案)について]

(事務局 医務課 宮本主査)
医学部臨時定員の状況及び令和7年度の方針(案)について説明(【資料4】関係)。併せて令和6年度地域枠の入学予定者数について報告(【参考資料1】関係)。

(平石会長)
事務局より、医学部臨時定員の状況及び令和7年度の方針(案)についての説明及び令和6年度地域枠の入学予定者数について報告があった。ただいまの事務局からの説明を受けて、各委員からご質問やご意見があれば発言をお願いします。

(宮下委員)

事務局から説明のあった方針について異論はない。臨時定員枠の削減の方向は、かなり前から国の決定した方針なので、いつかはということだと思う。和歌山県立医大としても、以前から申し上げているが、1点目の定員枠の維持については大学も異論はないので、その方向でお願いしたい。臨時定員枠の削減に対応するための基本的な考え方については、十分に色々な角度から検討していきたいと兼ね兼ね思っているの、よろしくお願ひしたい。

(駿田委員)

大学と協議を開始するという部分について、もし臨時定員が削減となった場合に、地域枠を一般枠で確保するかどうかという協議になるのか。

(事務局 医務課 宮本主査)

今後の協議の内容による。あくまでも選択肢の一つとしてはありえると思う。

(宮下委員)

あまり踏み込んだことを現時点では言えないが、地域医療枠、県民医療枠の確保は大学にとっても地域医療にとっても重要な部分だと思う。そのあたりの考え方も踏まえて議論していただくことになると思う。

(殿尾委員)

臨時定員枠が減少した場合、それに伴って大学の教員も少なくなるのか。

(宮下委員)

設置者へのお願いとしては、そういうことのないようにはしてほしい。そもそも本学は60名定員から、今の臨時定員含めて100名定員になる際に、教員の増員をかなりてこ入れしていただいた。医学教育も定員に応じた教員数というのが基本的な考え方ではあるが、一方で医学教育は高度化してるため、求められる教育のレベルを考えると、今の教員数を確保することは基本的に必要だと思っている。別のところでの議論になるかと思うが、設置者としてはそういう認識で対応をお願いしたいと思っている。

(中井副会長)

医師多数県から減らすことになるということだが、論理の飛躍がある。募集定員から歩留まりまでの全部のアウトカムが医師多数県や医師少数県である。そういう意味では、減らすのは飲むにしても、長期に渡って評価した上で、不十分な都道府県の場合は考慮するなど、そういった文章も和歌山県としては付けておいた方がいいのではないか。

(平石会長)

私自身は小児科医だが、あと5年もすれば今の開業医の地域医療は崩壊すると思っている。どこも医師の高齢化は避けて通れない。また、医師だけ養成するという時代ではなく、医師以外のバランスも必要だと思う。

他にないようであれば、事務局には方針(案)のとおり進めていただくようお願いして、次の議題に移りたい。

[議題(5) 医師の働き方改革に係る特定労務管理対象機関の指定について]

(事務局 医務課 小守主査)

医師の働き方改革に係る特定労務管理対象機関の指定について説明(【資料5】関係)。

(平石会長)

事務局より、医師の働き方改革に係る特定労務管理対象機関の指定について説明があった。ただ今の説明に対して各委員からご質問・ご意見はあるか。

(中尾委員)

意見というよりは現状報告。医師の働き方改革が4月1日からスタートということで、この2年間取り組んできた。当初は当院にA水準で収まる医師がいるのかという心配があったか、診療科ごとに意識改革が進み、協力いただいたおかげで、960時間に収まる診療科もある状況。

一方で、特定の診療科や医師派遣によって960時間を超えてしまうところがあるので、今回B水準と連携B水準で申請しているところ。

指定は3年ごとに更新する必要がある、取組を見直していかなければならず、B水準医師と連携B水準医師の割合を減らしていかなければならない。

当院としては、診療科ごとに取り組みを進めてもらっていて、宿日直許可もどんどん取得してもらっており、3年後に向けてA水準医師の割合を増やしていきたいと思っている。

(山下委員)

当院は数年前から取組を進めてきた。以前は4割の医師が960時間を超えていたが、現在は2割程度。ただ、これから先減らしていくのを心配している。

それから、どこまでが自己研鑽かという考え方についてが難しいところ。

これから先、960時間を超えている医師の割合を減らすよう、対策を講じて

いかなければならないと考えている。

(平石会長)

自己研鑽に関して、病院内で取決めはあるのか。

(山下委員)

厚生労働省が出しているモデルに準じたものを数年前に作成し、QA も作成し、運用している。

(中尾委員)

当院も厚生労働省のモデルに則ってルールを作成し、各診療科長が一同に会する会議でも示している。

(平石会長)

難しいところだと思うが、今後、長時間労働医師の時間外労働時間を減らす取組をお願いする。

他にご意見等はないようなので、当会としては指定について了承した。

[議題（6）令和6年度の医師派遣について（報告）]

(事務局 医務課 宮本主査)

令和6年度の医師派遣について報告（【資料6】関係）。

(平石会長)

事務局より、令和6年度の医師派遣について報告があった。ただいまの事務局からの報告を受けて、各委員からご質問やご意見があれば発言をお願いする。

(平石会長)

育児休業は本人の希望で自由に期間は決められるのか。

(事務局 医務課 宮本主査)

育児休業は法律で取得できることとされているので、定められた期間内であれば、本人の希望で決めることができる。

(平石会長)

他にないようであれば、次の議題に移りたい。

[議題(7) 令和6年度専門研修に係る専攻医の採用状況等について(報告)]

(事務局 医務課 宮本主査)

令和6年度専門研修に係る専攻医の採用状況等について報告(【資料7】関係)。

(平石会長)

事務局より、令和6年度専門研修に係る専攻医の採用状況等について報告があった。ただいまの事務局からの報告を受けて、各委員からご質問やご意見があれば発言をお願いします。

(中井副会長)

精神科11名については、1学年にこの人数がいるということか。

(上野センター長)

1学年の中にこれだけの希望者がいたということ。県立医大以外からも少しいたかと思う。教授がリクルート活動に力を入れていたという部分もあるかと思う。

(平石会長)

他にないようであれば、次の議題に移りたい。

[議題(8) その他]

(平石会長)

議題8、その他について、事務局より和歌山県立医科大学地域医療支援センター活動報告について報告があると伺っている。それでは、事務局より報告をお願いします。

(事務局 医務課 宮本主査)

和歌山県立医科大学地域医療支援センター活動報告について説明(【参考資料2】関係)。

(平石会長)

事務局より、和歌山県立医科大学地域医療支援センター活動報告について報告があった。ただいまの事務局からの報告を受けて、各委員からご質問やご意見

があれば発言をお願いします。

(平石会長)

黒潮医療人養成プロジェクトについては、高知大学が熱心にされていると聞いたが、和歌山県立医大の関わりについて教えてほしい。

(上野センター長)

これは文部科学省の7年間の事業で、高知大が主管校で手を挙げて、和歌山県立医大と三重大に声をかけてくれて実施しているもの。三大学で研修医の勉強会や、5年生、6年生の地域医療実習など色々なことを行っている。本当にいい事業が始まったと思っている。

(平石会長)

高知県の医師会長から聞いたところでは、高知は病院が消えると言われている。医師も看護師もいなくなるということ。地元で医師を残すため、危機意識を持たれていて、大学も色々やっているということか。

(上野センター長)

高知県は色々取り組んでいるが、困っていると聞く。三重県もそのように聞くので、三大学でお互い勉強会などをして取り組んでいるところ。

(平石会長)

日本医師会に行くと、隣に新潟県の会長さんが座っていて、雪国はへき地に研修医が来てくれないという話を聞く。和歌山県は研修医に来ていただけているので、先生方のご指導をよろしくお願ひしたい。

(平石会長)

他にはないか。

<特になし>

(平石会長)

本日本日予定していた議事は以上である。